

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ビー玉の誤飲による喉頭異物 (No 3, 11 スーパーボールの誤飲による窒息の類似事例 4)

事例	基本情報	年齢：1歳11か月 性別：男児 体重：12kg 身長：81cm
	家族構成	父親、3歳兄、本児の3人暮らし
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		喉頭異物・急性呼吸不全
医療費		入院 約600,000円
原因対象	対象名称	ビー玉
	入手経路 使用状況	本人が拾ってきたもの
発生状況	発生場所	自宅の居間
	周囲の人 周囲の環境	午後8時に父、兄とともに保育園から帰宅後、兄と一緒に遊んでいた。父は台所で、居間の様子が見えるところにいた
	発生年月日	2020年7月X日(月) 午後8時10分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	<p>上記時刻に、居間で遊んでいた本児が突然うなるような声を出した。父親がすぐに駆けつけたところ、本児は苦しそうに呼吸をしていた。そばにビー玉が落ちていたことから、異物誤飲と考え救急要請した。</p> <p>午後8時24分に救急隊が到着した時、本児は顔面蒼白で口唇チアノーゼを認めた。背部叩打法を行うも異物は排出されず、酸素投与を開始後に救急搬送された。</p> <p>原因となったビー玉はもともと自宅にあったものではなく、本児が発生同日の帰宅時にマンション入り口の生垣から拾ってきたものと思われた。生垣部分は、苔で覆われた地面に高さ70cm程の低樹木が植えられている。一部苔の剥がれた箇所を覆い隠すため、マンション管理人がゴミ置場から瓦、石、ビー玉などを集めてきて充填していた。半年前にも一度、本児がここからビー玉を拾ってきて、父親が誤飲の危険性を考え廃棄したことがあった。</p>

医療機関受診時
以降の治療経過
転帰

午後 8 時 34 分、医療機関 A（総合病院）に到着時、SpO₂ 100%（酸素 10L/分マスク投与下）であったが、流延があり、吸気時に喘鳴を聴取した。単純 X 線検査で、喉頭（声門上）と思われる部位に球形異物を認めた。同院での対応は困難と判断され、医療機関 B（大学病院）の耳鼻咽喉科に紹介、転送された。

午後 9 時 53 分、医療機関 B に到着した。意識は清明で、心拍数 173 回/分、呼吸数 51 回/分、SpO₂ 100%（酸素 2L/分マスク投与下）であった。吸気時に喘鳴を聴取した。再度単純 X 線検査を行い、異物が 1 つのみであることと、停滞位置に変動がないことを確認した（図 1）。仰臥位では喘鳴が顕著であったが、側臥位では喘鳴や呼吸努力所見が軽減した。

翌（X+1 日）午前 0 時 03 分、手術室で麻酔科医により麻酔導入された。迅速導入直後に SpO₂ が急激に低下し、マスク換気が不能となった。喉頭展開すると、異物は喉頭腔に陥頓して声門を完全に覆っていた。直視下に異物をマギール鉗子で摘出後、気管挿管した。呼吸状態の安定化を確認し、午前 0 時 48 分に抜管した。術後は集中治療室で管理した。呼吸状態は安定して経過し、X+2 日朝の胸部単純 X 線写真で異常がないことを確認後、同日夕方に退院した。

摘出した異物は直径 17 mm 大のビー玉であった（図 2）。



図 1 医療機関 B で撮影した頸部単純 X 線写真（左：正面像 右：側面像）
前医で撮影された画像と比較して、異物の停滞位置に変動はなかった

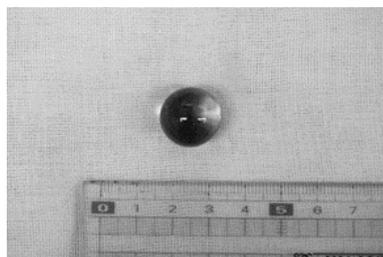


図 2 摘出したビー玉（直径 17mm 大）